

令和5年度 協働に関する職員アンケート結果

1. 調査対象 正規職員(嘱託、再任用、臨時職員除く。)
2. 調査形式 無記名式アンケート調査
3. 調査期間 令和6年1月24日～令和6年3月1日

4. 調査数及び回答数

調査数:564名

回答数:448名

回答率:79.4%

5. 調査方法 調査票を各課に配布



6. アンケート結果について

- 「協働の成果」「協働の課題」「今後の協働アイデア」について、職員から想像以上に経験談などの意見があつまりました。
- 【協働してよかったこと】
「職員にないノウハウを発揮して参加者の満足度向上につながった」「柔軟な発想で企画できた」「集客力があがった」「市民力の高まりやつながりの強化を感じた」など、協働によってたくさんの成果が生まれていることがわかりました。
- 【協働をしてみて感じた課題など】
「対等な関係とは言いづらく、行政批判や要望の場となりがち」「当初の役割分担や共有していたミッションが継続できない」などと、協働を円滑に進めるために乗り越えるべき課題も明らかになりました。

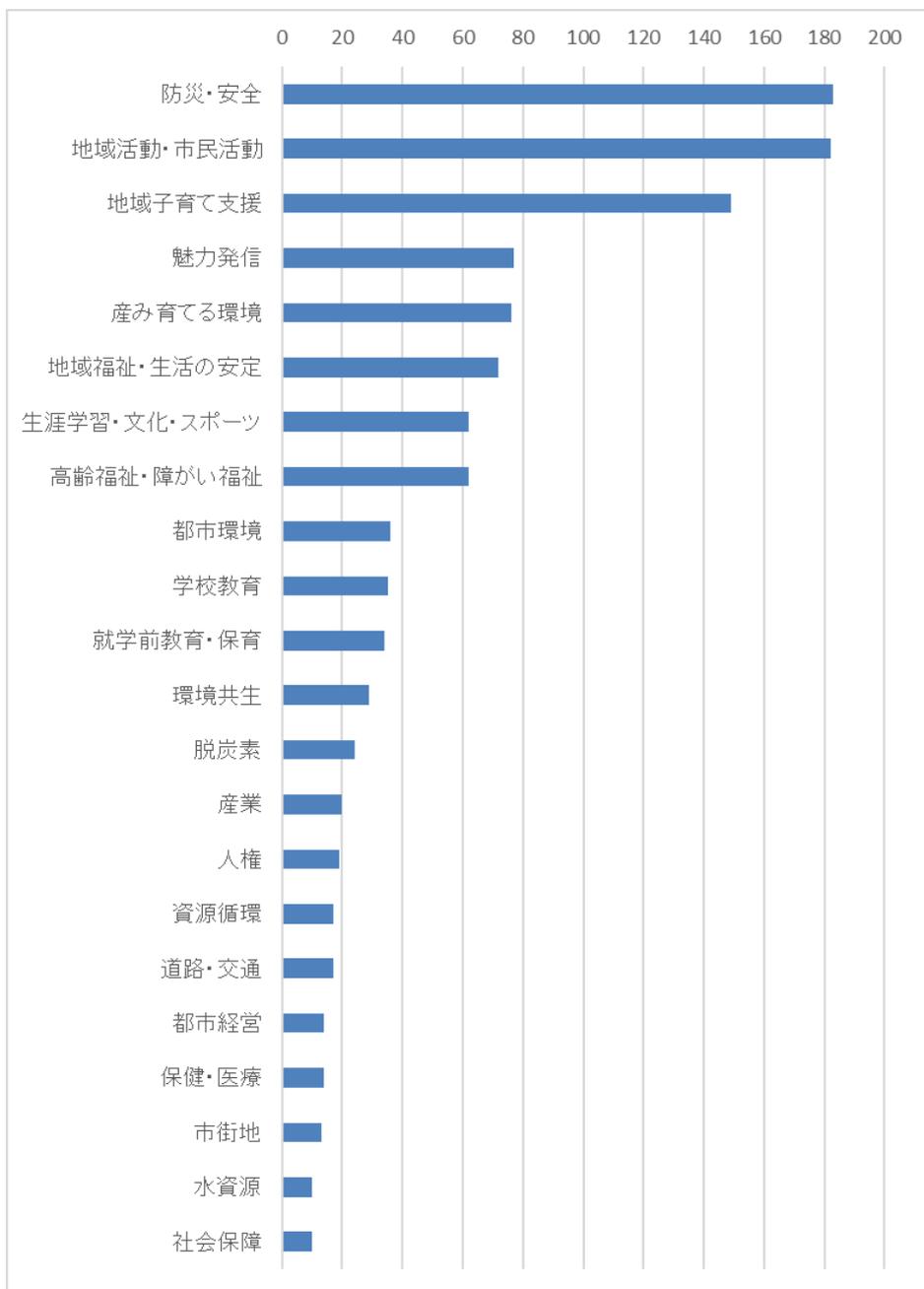
*各問の回答の詳細は、次ページ以降をご覧ください。

*()内の数値は前回(令和3年度)のアンケート結果を表示しています。

- 市が市民活動団体と協働で取り組むことが特に必要(有効)だと思う分野はどの分野だと思いますか？(2つまで選択可)

※分野は長岡京市第4次総合計画第2期計画より

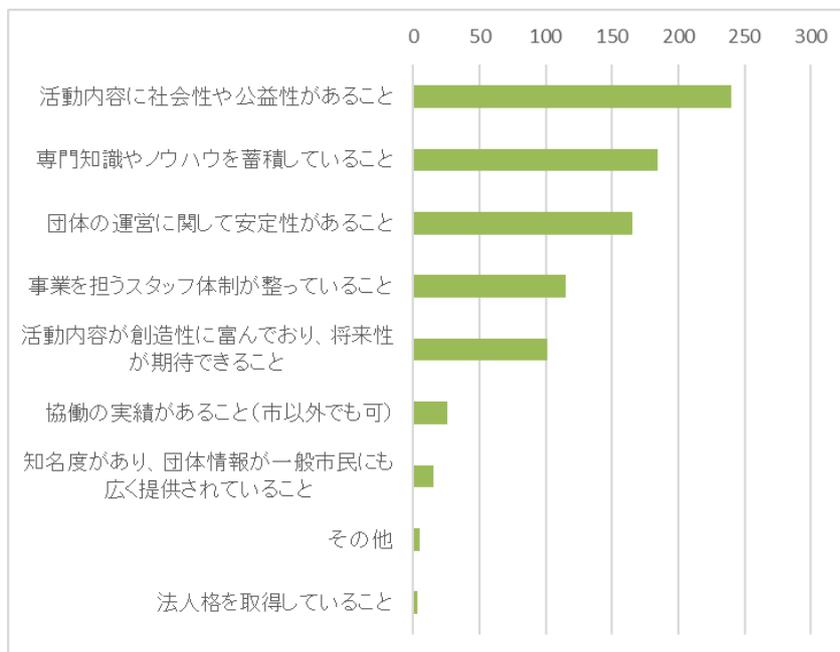
回答	計
防災・安全	183
地域活動・市民活動	182
地域子育て支援	149
魅力発信	77
産み育てる環境	76
地域福祉・生活の安定	72
生涯学習・文化・スポーツ	62
高齢福祉・障がい福祉	62
都市環境	36
学校教育	35
就学前教育・保育	34
環境共生	29
脱炭素	24
産業	20
人権	19
資源循環	17
道路・交通	17
都市経営	14
保健・医療	14
市街地	13
水資源	10
社会保障	10



- 一番回答数が多かったのは「防災・安全」という結果になりました。
- どの分野も市民との協働が必要なのは当然のことながら、「地域子育て支援」「産み育てる環境」の回答が多いのは、子育てしやすい環境や子育て分野のサポート充実のために、市民や地域の協力が必要とされていると考えられます。
- 「魅力発信」の回答が多いのは、市民目線のPRや口コミによる情報発信への期待が大きいと考えられます。

- 協働相手の団体運営について特に求めるものは次のうちどれですか？(2つまで選択可)

回答	計
活動内容に社会性や公益性があること	240
専門知識やノウハウを蓄積していること	184
団体の運営に関して安定性があること	165
事業を担うスタッフ体制が整っていること	115
活動内容が創造性に富んでおり、将来性が期待できること	101
協働の実績があること(市以外でも可)	26
知名度があり、団体情報が一般市民にも広く提供されていること	15
その他	5
法人格を取得していること	3

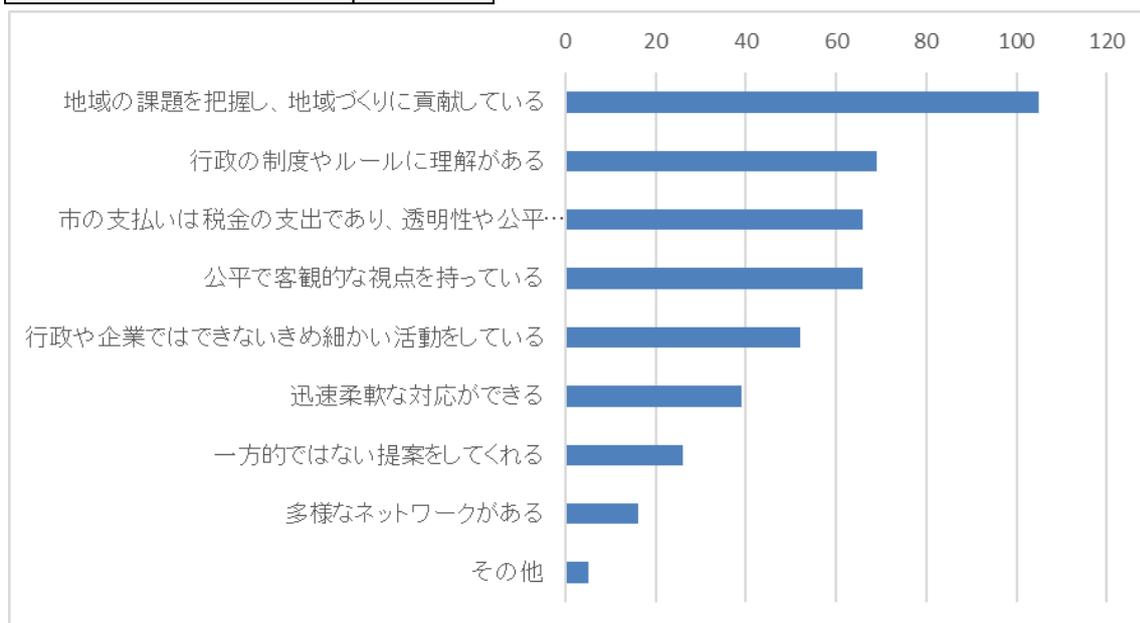


その他の意見

- ・自分たちが主体だと認識していること（市頼みにならない）
 - ・それぞれの事業において、市との協力体制が継続できる団体や事業者
 - ・非営利であること
- 最も重視されているのは「社会性や公益性があること」と「専門知識やノウハウを蓄積していること」でした。市との協働においては、やはり公益性が求められるようです。法人格や知名度よりも、実際に実施している事業の公益性、団体の専門性、安定した運営が重要視されているということがわかりました。

- 協働をしたい相手として最も重要と感じる団体の要素は次のうちどれですか。(選択は1つのみ)

回答	計
地域の課題を把握し、地域づくりに貢献している	105
行政の制度やルールに理解がある	69
市の支払いは税金の支出であり、透明性や公平性、効果の検証が必要であると理解している	66
公平で客観的な視点を持っている	66
行政や企業ではできないきめ細かい活動をしている	52
迅速柔軟な対応ができる	39
一方的ではない提案をしてくれる	26
多様なネットワークがある	16
その他	5

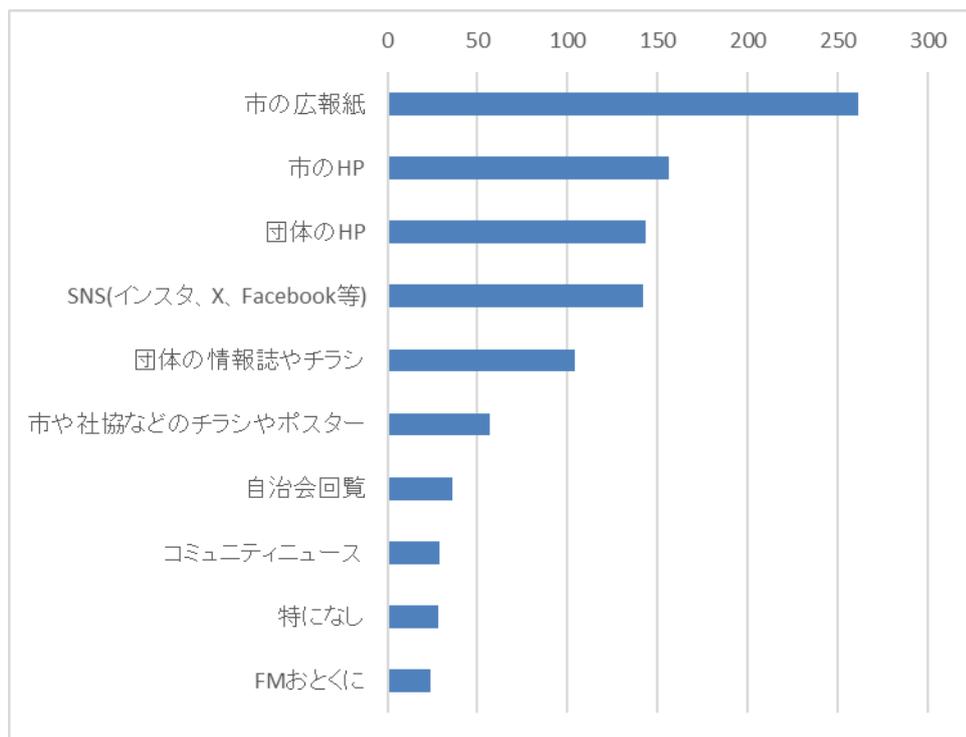


その他の意見

- ・違法なことをしない真っ当な団体・互いの立場を理解し、尊重し合える
 - ・何の為に活動するのか目的・目標意識を失わずに活動することができる
- 最も回答が多かったのは、「地域の課題を把握し、地域づくりに貢献している」となりました。これは、現場で積極的に地域課題に取り組み、解決に貢献している団体への期待を表しているものと考えられます。次点ではほぼ同数で、行政の制度やルール、公平性等への理解がある団体という結果となりました。

- 気になる市民活動団体等の活動状況を知るための媒体は下記のうちどれですか。(複数選択可)

回答	計
市の広報紙	261
市のHP	156
団体のHP	143
SNS(インスタ、X、Facebook等)	142
団体の情報誌やチラシ	104
市や社協などのチラシやポスター	57
自治会回覧	36
コミュニティニュース	29
特になし	28
FMおとくに	24



- 「市の広報紙」が最も多く、続いて「市や団体のHP」「SNS」の回答が多くなっています。市の広報紙やHPで紹介された団体は、職員に認知されやすく、印象にも残りやすいようです。一方で、団体のSNSなども積極的に情報発信することで、職員からの認知度を高めることが期待できます。

※問3の設問は記述式のため、全回答を分野別に紹介します。

【長岡京市と協働についておたずねします】

- これまでの担当業務の中で、協働をしたことで良かったことや効果・成果はどんなことがありましたか。
- 回答からは、協働によって、行政・団体それぞれにさまざまなメリットが生まれていることが読み取れます。
- 協働によって、団体の専門知識や市民目線での意見を取り入れて市民ニーズに対応できること、団体のネットワークを活かし情報発信力が高まる等の回答が多くなっています。

◆ 市民ニーズに応じた事業の提供や対応、専門性の獲得、新たな視点による企画

- ・ スポーツの事業において専門性があり、スタッフの人数が確保出来る団体と事業を進めることがあったが行政ではカバーが難しい部分に対応してもらえたことで、事業も成功となった。
- ・ 専門的な知識を教えていただいた。
- ・ 行政にないアイデアが生まれる。
- ・ 担当している業務を違う視点から専門的な知識を使って助言をいただいたこと。
- ・ 官民協働のプラットフォームにおいてその運営に市民活動者が入ることで、新たな視点やアイデアがうまれている。
- ・ 市民目線の立場から話をきくことで、より実効性のある企画をすることができる。
- ・ 専門的な知識を持っている団体と協働することでより専門的な内容でイベントを行うことができた。
- ・ 市民の声が反映される。
- ・ 臨機応変に対応してもらえる。
- ・ きめ細かい見守りをしてもらえる。
- ・ 行政の持ち合わせないノウハウをスピーディーに実行いただいた。市民のニーズを理解し、それに合った手法を即実行できること。
- ・ 地域の方が、自分たちのことだと思って具体的な提案をしていただいた。
- ・ 市職員にない技術・ノウハウを発揮し、イベント参加者の満足度向上につながった。
- ・ 色々な意見を取り入れられる。
- ・ 行政では行き届かない、きめ細やかな対応をして頂けること。
- ・ チラシ作成に長けておられるので、とても魅力的なチラシを作成していただいた。
- ・ 職員とは異なる視点からの意見を取り入れることができる。
- ・ 新しい視点で既存事業を見るきっかけとなる。
- ・ 市民の「生の声」を聞くことができ、事業に活かされたこと。結果、その事業に対する市民からの評価が上がった。
- ・ 数年で異動があるので、協働の相手が専門家だと、助かる部分も多い。反面、こちらも勉強しないと同じ土俵で話が出来ない。
- ・ 実態に合った事業展開ができること。

- ・ 障がいのある方と協働でイベントを開催したが障がいの当事者でないと分からない視点から意見をいただくことができた。(施設のハード面など)
- ・ 実際に現場で活動されていることもあり、専門的な知識が豊富であることから、行政にはない視点や行き届かないところをフォローしてくれる。
- ・ 行政だけでは思いつかないアイデア、人脈などが活用できた。
- ・ 市民目線での事業実施
- ・ 多様な意見をふまえた成果を得ることができた。
- ・ 行政、運営側にはない視点からの問題提起があったとき。
- ・ 自分にはない目線からの意見を頂けた。
- ・ 様々な分野や世代が持っている新しい視点や柔軟なアイデアを参考にすることができた。
- ・ ワークショップで専門的な意見を聞いた。
- ・ 同じ課題に向き合う際に、私たち公務員では発想しえないアイデア、アプローチに触れることができ、視野が広がりました。
- ・ より市民に近い目線で業務について考えられること。
- ・ 新しい知識やノウハウを知れる。
- ・ 得意な分野を生かし、仕事ができただけでまとまりがみられ仕事環境がよくなった。
- ・ 市役所にはない知識やノウハウを提供してもらい、事業を実施できた。
- ・ 地域の事情に詳しい方や環境に詳しい方など、行政職員では知識の足りない所を補いながら活動できた。
- ・ 行政とは違う柔軟な発想で「気づき」を得ることができた。
- ・ 市民や団体の経験値やノウハウを活かすことで、より市民ニーズに寄り沿った事業を実施できた。

◆ 市民の満足度向上、地域活性化、行政サービスの質向上

- ・ イベントでの集客力が上がった。
- ・ イベント主催時に、行政の広報だけでは難しいところを、関係団体の持っている SNS のツールで告知した所、人を集めることができた。
- ・ 事業者との活動のおかげで、普段関わりの薄い年代層からの声(要望等)を獲得できた。
- ・ イベントの内容や数が充実する。
- ・ 柔軟な発想と予算編成・執行のやりやすさが良かった。市予算単独より色々なことに対応しやすい。
- ・ 周年事業で、地元の人や団体の協力を得たことで、大きな拡がりにつながった。
- ・ 行政では届きにくいような場にも、ネットワークを活用して情報を広げてもらうことができる点。
- ・ 行政の事業だけではできない情報発信や周知を担ってもらえた。
- ・ 団体とつながりのある方へイベント周知をしていただけた。
- ・ 市では扱いにくい内容でも、市民団体を通すことで扱えるようになる。
- ・ 市では届きにくい客層などニッチな部分にも手が届いたことは良かった。
- ・ それぞれの得意分野を活かした効果検証を行うことができた。
- ・ SNS の情報発信のノウハウを持つ団体さんと協働することで、これまでできなかった興味

をひきやすい広報を行うことができた。

- ・ NPO ならではの機動性や柔軟性がある。
- ・ 行政とは違う視点で事業をすすめることができ、行政では手が届かない所も補うことができる。
- ・ 市の職員では思いつかない発想を知ることができた。市だけだと時間的制約があるが、協働することでより長い時間の関わりをすることができた。
- ・ 職員だけではカバーできない部分を任せてもらえる。
- ・ 行政より柔軟な発想でイベントを企画実行したこと。
- ・ 多くの人に関わることにより事業内容が手厚くきめ細やかなものになった。
- ・ 市単独では、成し遂げられなかった成果が上げられたこと。
- ・ 法や条例で定めのない事柄について協働できており、市民の満足も上がっていると感じられる。

◆ 関係性の拡大、行政・団体相互の人材育成

- ・ 発想の柔軟さ、フットワークの軽さ・別の視点の意見を聞くことでの刺激や気づき・関係性の拡大とそこからのつながり。
- ・ 相手方のスキルアップにつながったように思った。
- ・ 専門知識ノウハウを持った方に、講座をしてもらえ、参加者の満足度向上につながった。イベント企画実施者間での交流が希薄な点が課題か。横のつながり、ネットワーク作りが広がっていくようにできれば。
- ・ 地元の住民の方々と一緒になってイベントを盛り上げることができたことと、イベントの準備を通じて地元の人たちの仲よくなることができ、後の業務で人間関係が大いに役立ったこと。
- ・ 市民力の高まりを感じられた。
- ・ 後援名義各団体の取組に行政の信頼性を担保することでより多くの人々のイベント参加等につながっていると思う。
- ・ つながりを感じられた。人の顔が見られる
- ・ 市民目線での事業展開が図れたし、ご覧になった市民さんたちへの説得力も大きかったと思う。また、関係人口(主体側)に立って事業に参画してくださったことで、自分ごと化して継続性や発展性を真剣に促えてもらえていたと思うし、実際、大きく発展して継続いただいている。
- ・ 事業の関係者が増えることで集客や盛り上がり方に効果が出た。市民の中にも当事者意識を持ってくれる人が増えた。
- ・ ご協力いただける方との連携がとれ、後の活動がしやすくなった。
- ・ いろんな市民さんと出会えた。
- ・ 部署異動した先でもお世話になる人がいるので、業務が円滑に進んだ。役所発信ではやりにくいことをしてくれる。
- ・ エネルギッシュに活動される姿を見て元気づけられること。
- ・ 地域団体と一緒に取組をすることで、地域ごとにかかえる課題は様々であることを学んだ。
- ・ 人と人のつながりが増えれば増えるほど、円滑に事業を実施できる。より主体的に事業に

関わってくれる。

- ・ 地域の現状や課題を知ることができた。
- ・ 活動団体が自分たちで開催しているという自覚がめばえ、成果がうまれる。
- ・ 行政と地域住民の仲介をさせていただき、事業推進を図ることができた。
- ・ 協働の相手と課題を自分ごととして共に捉え、解決のための主体性が共に持てたこと。
- ・ 協働した団体が市に対して何を求めているのかを知ることができる。協働する団体に市の制度やルールを理解してもらうことができる。
- ・ 地元とまちづくり(今後の地域)について議論等を行い、考え方などを共有出来たこと。
- ・ 他部署の役割を知ることができた。
- ・ 地域と一緒に行事を行うことで保護者さんが地域に親しみがもてる。
- ・ 市民と関わりをもてる。

◆ 業務軽減

- ・ 日中働いている人が余暇活動を行うのは夜か土日なので、その人たちの取りまとめを、その人たちや団体が構成する協会に委託できることは、私たちの時間外勤務が減少し、時間と金の両面でありがたい。
- ・ 普及啓発活動など、より多くの市民に発信する必要がある事業においては、単純に手数が増えることで機会の創出につながった。また、市民対応の一部を担ってもらうことでより充実した市民サービスに寄与するとともに、業務負担の軽減にもつながった。
- ・ みどりのサポーターの勧誘を行っていただき、サポーター数が増加しました。
- ・ 公園清掃、除草作業等を自治会との協働により、維持管理できた。委託業務発注費用の削減につながった。
- ・ 道路、公園の美化活動により、市は費用がおさえられ、市民は植栽が一定条件の元で利用ができた。

◆ 具体例

- ・ 市民団体に図書館の本を修理してもらっている。
- ・ 地域の中高生に音楽(吹奏楽)の演奏に来てもらった。生の音楽を聴けたことが、子どもたちの刺激になった。
- ・ 保育士さんと食育を通して協働して、日々の子供達の食の様子や食材の好き嫌いを知って食材(野菜)を小さめに切る等、食べやすくしています。
- ・ やすらぎクラブと交流して、保育士以外の大人と関わることができいろいろな人と関わってよかった。いつもの子どもたちの姿とちがった。姿が見られ、貴重な経験だった。
- ・ 農林振興課で以前実施した「農業体験講座」や「コスモス祭」は市内の農家団体をパートナーに都市農業を知ってもらう、市内外にアピールする効果的な事業だったと思います。(コスモス祭は市外からの観光客も呼び込み市の棚田風景を PR)(体験講座は農地をお借りし、種まきから収穫まで農家の方から指導してもらい実現)
- ・ 側溝清掃のような、きめ細かな情報と即時性が求められる取り組みは、実施者が市民、支援が市の協働関係にすることで経費や問題解決の面で効果が高いのではないかと(市民自身の

手で守れる生活環境)。

- ・ (保育業務の中で市民の方との協働はなかなかもつ機会がないように思うが) 文化祭に参加することは地域の施設や文化を子どもたちに伝える、経験してもらう、また地域の方に子どもたちの作品を通して、保育内容を知ってもらう等それぞれを身近に感じられる貴重な機会になっていると感じる。
- ・ 保育所運営担当時、通所道路であるセブン商店会からご提案いただいたハロウィン企画が親子共に喜ばれた。運営そのものは日常業務を圧迫したが、近隣住民と子どもとの接点が多いことは、防犯・交通安全・子育て世帯への理解が深まるなど、数値化できない大きな効果があった。予算ゼロでも、皆が喜ぶイベントとなり素晴らしいと思う。
- ・ 防災関連のイベントを協働で行った際はより多くの地域の方にご周知等いただき防災啓発の効果をより高めていただいた。
- ・ 給食室(他業務)との連携で子どもに合わせた食事がすすめられた。
- ・ 「教えたい」市民に生涯学習ボランティアとして人材登録してもらい、市の講座やイベントの講師を務めてもらい、そこからサークルが立ち上がり市民の学びの機会が広がったこと。
- ・ 環境団体と供にリサイクルに関する絵本を作成し各小学校や関係機関へ幅広く配付できた。
- ・ より良い目標ができた。
- ・ 竹林整備事業で中学校や高校と整備事業を体験し、その切り出した竹を学校活動で利活用させた事業。
- ・ 小学校での小学生との交流や体験ができることは子どもたちにとって関心、期待を高められる機会となり、教諭、保育士の相互理解のきっかけともなった
- ・ 図書館に普段来ないティーンズ層を巻き込んだイベントを行い、参加者どうしの交流が生まれた。交流を継続的なものにしていきたい。

- これまでの担当業務の中で、協働をしたことで困ったことや課題に感じたことはありましたか。
- 回答からは、協働が必ずしもスムーズに進み、メリットだけを生み出すわけではないことが読み取れます。団体からの要望が多くなり結果として市の負担が多くなってしまふこと、コミュニケーション不足によりお互いのことを理解しきれていない等の意見が多くなっています。

◆ 慣習等への認識、一方的なコミュニケーション、価値観の相違、期待値とのギャップ

- ・ 地域ごとの特性をよく理解しているスタッフ等がない場合は、事業がうまく進まない可能性があるその為、キーパーソンになる人との関係性を構築することが課題と感じた。
- ・ 相手方との距離感の取り方が常に悩むところです。行政側の意思形成過程と民間のスピード感の違いの中で、行政の立場としてどこまで危ういものに対しブレーキをかけるべきか。休日のイベントへの顔出しや参加や、主催側や来場者が、イベント終了後の懇親会にどこまで参加するかなど。
- ・ 法的な問題や制度のことであれば対応できるが、習慣や慣習的なものの差は、どこまで埋めるべきか。
- ・ 一方的な提案、お願い事も多い。
- ・ 行政が当たり前と思っている内容と相手方との認識の齟齬。
- ・ 現実的ではない提案や、役所の制度の理解は少し困難。
- ・ 事業が成功するorしないかはパートナーからすると責任はやや行政側に重くのしかかっている(気がする)、パートナーからすると市を手伝ってあげている。
- ・ どうしても市からの指示待ちで動くという考えが団体等にあること。
- ・ 市がやって当然と思われる。
- ・ 公的にできない所をやって欲しいと要望されること。
- ・ 相手によっては、単なる要望活動になっていることがある。
- ・ 行政の思いや求めている事と、団体のやりたい事とのマッチング。
- ・ お互いの思いやゆずれない部分がぶつかったときにどう折り合いをつけるか。
- ・ どこまで行政がやるか役割分担が難しかった。行政のルールや必要な考え方(公平性など)の認識を共有するのに時間と労力を要した。実際には協働と言いながらも行政側の業務が多く、任せられる内容が限定的であった。「一緒にやっていく」という意識ではなく、「行政に意見を言う」に留まる人がいる。
- ・ 公益と共益を混同されて、行政への不満をつのらせる結果となられる場合があった。又、良いことをしているので行政が支援をするべきという発想の方とは、継続して協働していくことができない。正しい協働を市、市民双方が知るべき。
- ・ 行政と協働する団体は、共通の目標に向かって共に進む仲間であり、事業者として同じ業務に取り組むパートナーでもある。しかし、市民サービスと協働の違いを理解せず、行政に対して「物申す」ような姿勢で接してこられると、対等な立場で建設的な話し合いを進めることが難しく、大変困ることがある。
- ・ 「行政は動きが遅い」など行政のしくみを分からないまま文句を言われ円滑な関係性を築

きにくいと感じた。

- ・ 本来の目的のためではなく、自分たちのやりたい事が優先され自己満足の活動になっていたことがある。
- ・ 対等な関係とは言いづらいところがある(NPO 等に対して厳しい意見が言いづらい)
- ・ 行政批判になりがちで、「民間だったら〇〇」などの発言をされることが多い。市民や団体側の教育や意識向上が最も必要ではと思います。
- ・ ルールを守れず、自分の考えを通そうとする方と協働を行うのは難しいと感じました。
- ・ 実現が難しい内容の希望があったとき。
- ・ 偏った意見での要求をされ、市全体をみた動きをしにくくなったことはある。
- ・ 伝票のための書類取扱において、市のルールがうまく伝わらなかった。
- ・ 行政への要望を聞く場(相手からすると現状を市へ訴える場)に留まり、前向きな対話ができなかったこと。
- ・ 本来、行政と団体は同じ立場であり、共に課題について解決の検討をするものであるのに、行政対団体の構造になり、課題の解決を一方向的に求められる。
- ・ 街への思いや実現したいことへの思いが強くて行政側の意見に耳を傾けてくれないと感じたことがあります。
- ・ 協働の相手方の熱意から行政に苦言をいただくこともある。
- ・ 日常の業務が多忙で、十分な相手方との話しあいやふりかえりがしにくい、できないことが課題と感じる。
- ・ 団体の活動に対する思いが強いため、市役所に対する要望となりがち。
- ・ こちら側の期待することと相手方のやりたいことが合致せず進まない、思っていない方向に行く。
- ・ 要望になることがある。体制だけで、市役所がやることとなる。

◆ 意思決定の遅滞、目的・ビジョンの違い、行政依存、ボランティアへの負担、固定化

- ・ 協働相手と情報が食い違ったときに整理する時間が生まれ来庁者を待たせることがあった。
- ・ それぞれの団体によって目的やビジョンが異なる点。
- ・ 最初に詳細なルールを決めておくほうがよいと思った。
- ・ イベントで団体の方々と協働することがあるが、どちらがコピーするかなど細々とした諸費用をどちらが支払うかがしばしば問題となる。
- ・ 預けた本が行方不明となってしまった事があった。
- ・ 住民の方の多くは、昼間に働いているので会議が夜になってしまうこととなかなか連絡がとれず焦ったこと。
- ・ 決定していたことを変更しようとするところ(市はそこまで臨機応変に動けないところがあるが、感覚が違う)。
- ・ 多くの人や団体と1つの事業をしようとする、その調整にかかる時間が膨大になる。その中心に市が立つことになる場合その時間的コストはあらかじめ理解しておくべき。
- ・ 行政はお金のみ出すというイメージが残っていること事務局を行政が担うと、各団体が行政に頼りがちになる。
- ・ 役割分担と範囲

- ・それぞれの想いが違う際やスケジュールが合わない場合の調整が大変。
- ・協働が結果的に団体への支援に終始して、行政にとっては負担、団体にとっては自立の妨げになっていると感じたこと。
- ・市役所任せになっている団体がある。逆に、役所がアリバイ作りのために団体を利用することがある。
- ・市側がすべて準備を行い、相手はお客さん状態になる場合もあるその場合は、直営で事業を行ったほうが良いと感じている。
- ・課題の認識はできたが、それを市としての解決策に結びつけるのは容易ではない。
- ・立場の違いから理解していただけないことがあった。
- ・民間、市民のアイデアを実践に移す際、役所の文化、ルールを踏まえて落としこむことにエネルギーが必要と感じました。
- ・団体側の意見をどこまで尊重するか判断が難しい、協働いただいている以上、全く取り入れないというのは厳しい
- ・地域主催の行事に参加させてもらっている感が大きい。
- ・活動に意義はあっても、企画・事務が事務局(市職員)におんぶにだっこで委員に自らの活動であることの自覚がない。
- ・団体のこだわりや主張が強過ぎる場合、スムーズに進まず、手間と時間が増大するケースがある。
- ・市民活動団体の活動に対しての思いが強く、他団体の活動への理解不足から生じる連携の難しさと活動メンバーの高齢化と固定化。
- ・行政は協働相手にも「責任」や「継続性」を求めることが多いが、市民や団体側はあくまでボランティア意識で関わっていただいていることが多い、ボランティアは、肩の力を抜いて参加できるからこそボランティア参加できるのであり、そこに「責任」や「継続性」を求めると負担感からミスマッチが生まれてくる。ボランティアの方の人柄の良さからなんとか継続している事業が多いように感じる、側溝清掃のような「都市環境」や防災のような、「市民も必然的に当事者」となるようなテーマこそ協働に向いているのではないかと考えたりします。
- ・事業への迅速性の低さ
- ・意見の集約、意志決定などに時間を要した。
- ・協働の名のもとに、組織としてボランティアしている相手を過度に期待していると感じるときがある。

◆ 選定方法、費用対効果、公平性の欠如、ガバナンスの脆弱性

- ・委託している効果が感じられない上に、成果を出そうという姿勢が見られない。
- ・「協働相手の公平性」事業者 A と活動した場合、横並びの位置にある事業者 B.C との活動の機会を確保すべきだということ。
- ・収入を会計上に計上せず、転用(支出)するなど家庭の帳簿感覚で物事を考えるところ。
- ・団体と協働のもと事業を進めることを想定していたが、団体が突っ走ってしまったことがあった。
- ・長い間、地域活動を担われ、一番地域のトップになられたとき他の人の意見を全く聞かれ

なくなったり、周りの人へパワハラ的な発言や行動をされたとき、企業や行政のように、ルールがない。市民活動のコンプライアンスについてルールがない。

- ・ 会計の透明化など
- ・ ふりまわされて、仕事量がかなり増えた。(時間がなかったため)。

◆ 共通認識の喪失、高齢化と担い手不足、リーダーシップの不在

- ・ 人の入れ替わりで活動が衰退してしまった。
- ・ 事業開始当初は、同じ目的、達成手段等を行政団体双方とも共有していたものが、除々にズレが生じていくことがある。そのズレを修正していくためには、行政・団体とも柔軟性をもって相互理解に努めるべきだが、人事異動等もあるなか難しい面がある。一言で言うと「継続性」。
- ・ 双方にメリットがないと続かない。
- ・ さまざまな主体をまとめるキーとなる人の重要性。
- ・ 古くから活動されている団体では、高齢化により、活動や団体の存続が難しいと感じる事もあった。次の世代へ繋いでいける仕組みづくり、連携強化などが望まれる。
- ・ 協働する相手方の高齢化。
- ・ 高齢化による活動中止や縮小。
- ・ 地域で活動されている方の顔ぶれが長年変わらない。後継者不足により負担が片寄ってしまっている。
- ・ 団体の高齢化や、担い手不足。
- ・ リーダーが代わるときに「想い」は継承されづらく「やらなければならない業務」に陥らないよう保つことが困難と感じる。
- ・ 活動を担う世代の高齢化が進み、存続にあたり次世代の担い手を見つけることが難しいこと。
- ・ 年構成が一定なため継続していくことが難しいこと。
- ・ 担当する職員や相手で効果が違うこと。
- ・ 協働という名の元で、行政運営のお手伝いを任せて頂くことが大半で発足当時はスムーズに事が動くが、長年続くと役員などの交代により結局、行政が手を貸すことになる。協働でなくなる。

◆ その他の課題

- ・ 後援名義については、その趣旨を正しく理解されていないことが多いと感じることがあった。市の掲示板にポスターを貼りたい、学校や保育所でチラシを配布してほしい、というためだけに後援名義を申請しようとされることもあり、後援の趣旨にそぐわない申請に対する対応に困る。(利益追求、売名・宣伝、特定の主義主張など) 掲示・配布、後援申請ではなく、まず協働に関し市民の方にも伝えることも必要ではと感じた。
- ・ 協働について意識している団体が少ないと感じる。
- ・ 補助金等で必要な書類が、内容審査以前のレベルの指摘が多いこともあり、本来不要なはずの時間がかかることがある。行政の立場を理解しない一方的な主張をする人や団体もある。

る。

- ・ 専門性がある業務において、協働相手の専門性知識等を如何に担保するか、市と異なる見解を流布しないか、どこまでを協働の対象とするかの判断。
- ・ 地域でのもめ事にまき込まれ、どちらにもつけず苦慮した。
- ・ 給食を作っている上で、基本赤ちゃんから年長さんまでと小さいので、薄味が当たり前なのですが自分の味覚で(大人の味覚)で作ったりすると、味が濃すぎるので、それが普通になっているのは困ります。
- ・ 工事等における理解。
- ・ 会議等、夜遅い時間からの開始が常で、職員の時間外の負担が大きい。

3-3. こんな協働ができればいいなというアイデアがあれば教えてください。

- 回答からは、様々な分野における協働のニーズが読み取れます。
- 子育てや教育、居場所づくりなどの意見が多く提案されています。
- 協働をする上で大切なことはお互いを尊重し理解し合えることであると考えている職員が多いようです。

◆ 世代間交流、多世代交流、居場所づくり

- ・ 中高校生の活動、活躍、居場所づくりなど協働できればいいと思います。このあたりがちよっとものたりないというか、産み育て、就学前、あたりは手厚くいろいろあるように感じています。
- ・ 制度やサービスでは解決できない課題を市民活動といっしょに解決していけたら良い(居場所や活動場所 etc.)。
- ・ 高齢者の孤立を防ぐために、「まごとも」のような世代間交流や見守りサービスや、高齢者の方々が集えるようなスマホ教室などの簡単な習いごと。
- ・ 生涯学習業務を通じて思うのは、「学習」に対する長岡京市民の意識の高さ。「教えたい」「学びたい」というところから仲間ができる。地域において知り合いが増えることが、最終的には自治組織や市民活動への関心や入り口につながると思う。最初は趣味で良い。趣味から広がる人とのつながりという草の根から「きっかけ」のみで良いので支援が必要と思います。

◆ 子育て支援

- ・ 子どもの貧困対策やその親に寄り添える居場所の運営。なんでも相談室のもうすこし気軽に立ち寄れる感覚の窓口を地域に。
- ・ 奈良県が R8 から教員の休日部活動指導を廃止すると発表した。地域クラブ活動へ移行する考えだが、これも、協働だと思います。地域によって活動可能な分野に偏りがあると思いますが面白い取組みだと感じました。
- ・ 保護者会との共通認識のもと、卒園プレゼント(アルバムや証書入れ)を定番にしていきたい。保護者会のアンケートは、人数の把握が難しく、どのくらい同じような意見があるのかをきちんと受け止めた上で、運営に生かしたい。
- ・ 子どもの姿を理解し、子どもを育てることに希望や期待にかわるような取り組み。
- ・ 子育て中の親、不登校の親、介護中の人など当事者どうしの居場所づくり。
- ・ 女性が主となる団体を活用するのは良いと思う小さな子供のいる女性はどうしても活動範囲がせまく家にこもりがちになるので、大人同士が話せる場を提供する事を兼ねて、子供づれで楽しめるイベントや父親も子供づれで集まれる場をつくれたら可能性が広がると思う。イメージは足立病院の「マミーズスクエア」。
- ・ 教育現場の負担を軽くすることも含めて、外部と協力できることを増やしていけないかと思います。(柔軟に対応できればいいなと思います。)
- ・ どのような、市民活動があるか、把握できていないのですが、保育所の子どもたちとふれ

あったり、一緒にあそんだり、活動をされている施設に行って、交流できたらいいのでは
と思いました。

- ・ 保健師との連携がもっと密にとれれば良いと思う。(支援等について、担任が)

◆ 地域活性化

- ・ 市職員が副業としてNPOに参画。
- ・ 課題と、その課題がどのように解決されるのが良いかを共有・共通認識し、共にそれぞれの強みを活かして解決・達成していく協働。
- ・ 市に店舗がある。飯食店や、小売店の事業者と出店のようなイベントを企画。市の新たなイベントとなり、市への人の動きが見込め、活性化となる。
- ・ 市内だけでなく、もっと広域に展開できればいいなと思います。
- ・ 昔あそびの伝承
- ・ 物づくり(伝統的な)と教育現場が協働し、伝統を伝えていく。
- ・ 地域の清掃等
- ・ 草刈

◆ 防災・減災

- ・ 南海トラフ地震は必ずくると思うので、防災面で協働を進めていければ良いなと思います。
- ・ 災害対応の際の住民によるボランティアによる避難所運営の実現

◆ よりよい協働のために

- ・ 周りの目も大きいと感じます。「特定の団体や個人を優遇している」「行政がやっているのにいつもと違う」「私たちの活動のじゃまをするな」等が言われずに協働していける環境が根づくとも協働がしやすくなるだろうと思います。
- ・ 他の部署でも協働している事務所があれば、関係者としっかり顔を合わせて定期的に会議などがあれば、もっと円滑に事務が進むと思います。
- ・ 行政のできることに限りがあり、予算も限りがあるため地域での思いや地域の力を生かして具本化できるのが、持続可能で地域に見合った資源になると思います。市役所は色々情報が集まってくるので必要な人と人をつなげるような役割が担えたらよいと思います。
- ・ お互いメリットのある関係で仕事ができること。
- ・ 同じ人だけでなくハードルの低い参加しやすさ
- ・ 市民や人とのつながりで新しく発見が見出せる事
- ・ 無理につながろうとせず、お互いの利害関係が一致した時にゆるく、しっかりつながれるマッチングシステム「協働マッチング BANK」ボランティア、委託的、補助金的 etc.様々なレベルの需要と供給を BANK 登録！
- ・ 対等な関係で、お互いを理解して取組んでいけたらよいと思う。以前されていた(今もしてる?) テーマ募集は良いと思います。部署と団体(および企業)のマッチングの仕組みがあればよい。
- ・ お互いのウィークポイントを上手にかばいあって、持続的な関係が築けるような協働。相

手にとって、メリットの大きいもの(経済的、社会的)。

- ・ お互いの信頼関係を構築できる職場作り互いの力を引き出し合って、大きな成果をあげる。
- ・ 仲間と一緒に目的、目標を持つ。
- ・ 相手の立場になって話を聞く練習をする。
- ・ ひらめきや発想を仲間と共有する。
- ・ 安定した組織づくりを目指すのとは別に、イベント等臨時的に、その都度運営するスタッフを募り、イベントが終われば解散するスタイルでの実施。
- ・ 協働できるのは人一倍の熱意や体力のある人が推進していると思います。今後は情報リテラシの高い高齢者に、オンラインでの市民講座を実施したり、フリーランスの市民から新しい街づくりのアイデアを集めたりできるような任意団体の創立支援を行い、審議会・懇談会委員として意見を頂けるようなものがあれば。距離感が遠すぎず近すぎずのバランスを取ることが必要となるが、行政内から出づらい、発出しづらい視点の意見がもらえるのではないかと考える。
- ・ 市民が生活に身近に取り入れるのに参考にしやすい内容のもの
- ・ 協働が、お互いの得意なことを持寄って課題を解決する手順であることを理解して、互いに敬意を払いながら進めることができると思います。
- ・ 市と団体で協働したい、してもらいたいテーマとマッチングできるサービスとかあれば面白いですね。
- ・ 全体イメージをうまく共有しながら進められると良い。
- ・ お互いを尊重しあえる。

◆ その他

- ・ 図書館の本を整理したり、拭いてキレイにしてもらったり職員が手のとどかない細やかな作業。
- ・ 有償ボランティアに対し成果の大小を査定して差をつけて支払う。
- ・ 協働楽団(バンド)
- ・ 施設の維持管理等
- ・ 公園リニューアルの計画づくりや公園管理について、地域の方と一緒に取り組む。
- ・ 市内の景観や空き家対策、公園管理などは、周辺住民とよりよい施策を実施していくのがよいと思います。
- ・ 行政(国・府・市)が依頼する〇〇委員選出への人物の紹介や推薦協力